

答え合わせ・解説

問1	答え 1 扇状地	山地を流れる急峻な河川が平地に出る際、勾配が緩やかになることで流速が落ち、それまで運搬してきた土砂がその場に積み重なることで形成されます。等高線を確認すると、山の出口（谷口）を頂点として、平地側へ同心円状に広がっていることが特徴です。
問2	答え 1 北の中国山地と南の四国山地が、夏と冬それぞれの季節風が運んでくる湿った空気を遮るため。	日本の気候は季節風の影響を強く受けますが、瀬戸内地方は二つの山地に挟まれた地形をしています。冬の北西の季節風は中国山地で、夏の南東の季節風は四国山地でそれぞれ水分を落としてしまうため、瀬戸内側には乾燥した空気が流れ込みます。このメカニズムにより、年間を通じて降水量が抑えられています。
問3	答え 1 季節風（もんすーん）	季節によって吹く方向が逆になる風を季節風と呼びます。日本では夏は南東の太平洋側から、冬は北西のユーラシア大陸側から吹くのが特徴です。夏の季節風は暖かい海洋上を通ってくるため、多くの湿気を含んでおり、日本の夏特有の蒸し暑さの原因となります。一方、「やませ」は初夏に東北地方の太平洋側に吹く冷涼な風を指します。
問4	答え 1 奥行きのある湾内は外海の影響を受けにくく波が穏やかであるため	リアス海岸は、突き出た岬によって外海からの強い波が遮られるため、湾の中が非常に穏やかな状態に保たれます。このため、養殖いかだなどの設備を設置・管理しやすく、三陸海岸ではカキやホタテ、志摩半島では真珠などの養殖が発展しました。
問5	答え 1 ハザードマップ（防災マップ）	自治体が作成するこの地図は、過去の災害データや科学的な予測に基づき、洪水や土砂災害などの危険性が高い場所を示しています。住民が事前に危険箇所を確認し、迅速かつ安全に避難所へ移動できるようにすることを目的としています。
問6	答え 1 災害時の被害予測を住民と事前に共有し、円滑な避難行動や日頃の備えに役立てるため	ハザードマップは単なる過去の記録ではなく、科学的な予測に基づき「どこが危ないか」「どこへ逃げるべきか」を住民に知らせるためのツールです。自分たちの住む地域の特性を理解し、災害発生時にパニックにならず適切な行動をとるための防災教育や計画に活用されています。
問7	答え 1 魚類の餌となるプランクトンが豊富に含まれているため	親潮は寒流であり、冷たい水には酸素や栄養塩が溶け込みやすく、それを利用するプランクトンが大量に発生します。この豊富なプランクトンを求めて多くの魚が集まるため、親潮の流れる海域は非常に豊かな漁場となります。
問8	答え 1 人工衛星から撮影された雲の分布を捉えることで、気圧配置や天候の推移を把握する。	気象衛星は宇宙から地球を撮影し、雲の広がりや動きを画像として捉えます。この雲の分布を分析することで、台風の現在地や前線の位置、低気圧の発達状況などを視覚的に把握し、今後の天気の変化を予測するために役立てられています。等圧線を用いた天気図とは、情報の得方が異なります。
問9	答え 1 季節風	日本では、夏は太平洋側から湿った空気が流れ込み、冬はユーラシア大陸側から冷たく乾いた空気が吹き込みます。このように、季節によって決まった方向に吹く風を季節風（モンsoon）といい、各地の天候や降水量に大きな影響を及ぼします。